

教育研究業績書

2022年7月26日

氏名 柳原 高文 印

研究分野		研究内容のキーワード		
社会科学		生活、理科、幼児教育・保育、教材開発、環境教育		
教育上の能力に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 教育方法の実践例 フィールドワーク	平成23年4月～現在	フィールドワークを組み込み、学生の実践力を高める講義形式を活用している。		
2 作成した教科書、教材 国連生物多様性と子どもの森キャンペーン教材	平成24年4月	生物多様性と森林、樹木の関わりについて小学校低学年向けにまとめている。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価	令和2年1月	名寄市立大学令和1年度後期授業「生活」(1年)アンケート結果において、「教員の伝え方は明瞭であった」の設問で、44名中41名の生徒が「そう思う」と回答、「授業に対する教員の意欲や熱意を感じた」の設問で、44名中43名の生徒が「そう思う」と回答していた。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成14年4月～平成28年	森林インストラクター養成講座講師 「森林」高尾山実習		
5 その他				
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 資格、免許	平成13年1月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会森林インストラクター(登録954号)		
2 特許等		特記事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし		
4 その他		特記事項なし		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 「森林環境教育アクティビティ・プログラム集」	単著	平成21年3月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	森林環境教育アクティビティ・プログラム集。小学校教育現場で実施が可能になるよう、学習指導要領を参考にして教科の学習で利用できるように、目的、指導計画、指導の要領を明記している。授業の展開では、教師の発問や児童の発問など、具体的な教育活動が分かるような形式になっている。A4 92p
2. 子ども樹木博士のための樹木図鑑	単著	平成22年11月	子ども樹木博士推進協議会	五感で観察するポイントなどを明記している図鑑。北海道から沖縄まで、全国で利用できるように代表した樹種を説明している。150種の樹木を、名前のいわれ、文化的な利用方法、分布、五感で観察するポイントなどを明記している。写真では、「葉」、「花」、「樹皮」、「全体樹形」を写しているため、わかりやすくなっている。B5 84p

3.「続 森林環境教育アクティビティ・プログラム集」山村編	単著	平成24年3月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	山村文化から環境を考える教材集。教育現場で実施が可能になるように、指導計画案、学習指導案などを明記している。学習指導要領を参考にして教科の学習で利用できるように、目的、指導計画、指導の要領を明記している。授業の展開では、教師の発問や児童の発問など、具体的な教育活動が分かるような形式になっているA4 61p
4.「なつかしい野外活動アクティビティ集」森遊び・野遊び」	単著	平成24年8月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	日本全国で行われていた自然を利用した野遊びをイラストを交えて紹介している。植物を使った野遊び4 2種、生き物・地域特性の遊び2 1種を掲載している。日本全国の聞き取りをしているので、その地域ならではの伝統的な遊びや呼び名などが知ることができる。B5 70p
5.「みづかな里山のアクティビティ集」学ぶ・あそぶ・育てる体験活動マニュアル	単著	平成25年8月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	里山で行うことができる活動を指導事例を示すとともにイラストを用いて分かりやすく説明している。学習指導要領を参考にして教科の学習で利用できるように、授業の展開を記載して、活動事例では、教師の発問や児童の発問などの会話形式を用いることで、具体的な教育活動が分かるような形式になっている。B5 88p
6.「森のようちえん」アクティビティ集	単著	平成26年8月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	森のようちえんで行うことができる活動を指導事例とともにイラストを用いて分かりやすく説明している。学習指導要領を参考にして教科の学習で利用できるように、目的、指導計画、指導の要領を明記している。授業の展開では、教師の発問や児童の発問など、具体的な教育活動が分かるような形式になっている。B5 90p
7.小学校で役立つ！自然とみどりのアクティビティ集」森あそび・野あそび	単著	平成27年8月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	小学校の教科の目的に適したアクティビティ集。単元の導入として利用できる構成をしている。学習指導要領を参考にして教科の学習で利用できるように、授業の展開を記載して、活動事例では、教師の発問や児童の発問などの会話形式を用いることで、具体的な教育活動が分かるような形式になっているB5 70p
8.入門編 森で行う園外保育森のようちえん	単著	平成28年8月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	森のようちえんを行うための基礎知識、安全対策、実践例をまとめている。森を歩きながら行う指導法、説明のポイントを明記し、安全対策では危険な動物、植物を実例を出しながら説明している。さらに、森のようちえんで可能なアクティビティや主な樹木の図鑑も付属している。B5 84p
9.アクティブ・ラーニング森林環境教育小学校で活動するための基礎知識	共著	平成29年6月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	アクティブ・ラーニングと森林環境教育との関わりについてわかりやすくまとめている。活動報告や実際に小学校で活動するための基礎知識をまとめている。 森林環境教育とアクティブラーニングの関連・小学校で活動するには・発達段階・安全対策・活動事例・アクティビティを担当執筆した。 執筆担当箇所：pp.2～3,10～79

10.森林インストラクターが森のようちえんで活動するための基礎知識	単著	令和元年6月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	森林インストラクターをはじめとする指導者が、「森のようちえん」で活動するための基礎知識をまとめている。「森のようちえん」と幼稚園教育要領とのかかわりや実践事例、学びとして、アクティブ・ラーニングやサイエンス・プロセス・スキルとの関連もわかりやすく示している。さらに「安全対策・指導の種・気付きを促す言葉かけ
11.今こそ教育	共著	令和3年4月	ミネルヴァ出版	高野山大学教育学科教員を中心とした執筆者たちが専門とする教育について論じている。
12.自然の中での幼児教育のすすめ	単著	令和3年6月	一般社団法人全国森林レクリエーション協会	森林インストラクターをはじめとする指導者が、幼児教育の連携するにあたっての手引きを示している。
(学術論文)				
1.森林環境教育のプログラム開発と児童にもたらすその効果(学位論文・査読付)	単著	平成21年2月	宇都宮大学大学院農学研究科 本文55p、資料67p	小学校や幼児教育施設などで、幼児・児童が活動できる森林環境教育のアクティビティ・プログラムを開発し、埼玉県さいたま市見沼区の小学校5年生138名の総合学習において、体験した児童12名と体験していない児童126名との環境意識、知識を対比しその効果を実証した。
2.獣医師と大学との連携で行う「動物とのふれ合い授業」の意義	単著	平成30年3月	社会保育実践研究 第2巻 p11-22	幼児教育、初等教育の教職を学んでいる学生に、生活科の講義で、獣医師と連携して行った「動物とのふれ合い授業」を行なった。この講義では、実際にウサギに触れる体験をしたことから、学生の実践力が高まったという感想が多く答えられていた。これらのアンケート結果からその意義について考察した。
3.保育・初等教育を学ぶ大学生の地域別特性	単著	平成30年3月	社会保育実践演習 第2巻 p45-58	東京都昭和女子大学95名、埼玉県埼玉学園大学88名、栃木県白鷺大学407名、北海道名寄市立大学86名の、保育・初等教育を学ぶ学生にアンケート調査し、好きな場所・植物・動物、将来住みたい地域などをアンケート調査し、その地域別特性を考察した。その結果、関東と北海道の学生間で地域特性差が見られた。
4.「森のようちえん」における園児の「アクティブ・ラーニング」及び「生活科」とのかかわり(査読付)	単著	平成30年3月	名寄市立大学紀要 第12巻 p11-22	「森のようちえん」で、「アクティブ・ラーニング」の基礎となる活動が行われ「生活科」の基礎になるのではないかとという点にも着目し調査・考察を行った。結果、園児の森での活動から、自ら課題を発見し協働していることが分かり、これがアクティブ・ラーニングの基礎となること「生活科」の基礎となっていることがわかった。

5.小学校放課後活動における森林環境教育の効果(査読付)	単著	平成30年3月	野外文化教育 第16号 p15-30	北海道名寄市の郊外に位置する小規模特認校である小学校の放課後活動として行なっている森林環境教育の効果について考察した。年間を通した活動の児童たちの評価や活動している森に樹名板を設置し、子ども樹木博士認定活動を行い、児童の発達段階と樹木の正解数から考察した。
6.森林環境教育と地域との関わり	単著	平成31年3月	社会保育実践演習 第3巻 p21-29	北海道名寄市の郊外に位置する小規模特認校小学校でヒメギフチョウを飼育し、地域の宝物を教材にすることの意義を考察した。地域の誇りとなる自然の宝物に対する意識を地域住民61名(全住民127名)からアンケート調査を行い、その意識と放課後活動の評価をヒアリングし考察をした。
7.「森のようちえん」における園児の「学び」(査読付)	単著	平成31年3月	名寄市立大学紀要 第13巻 p45-56	「森のようちえん」で、園児に多くの「学び」が生まれていると考えた。そこで、園児の行動、言動を参与観察法で調査し、認知的発達の側面からみた育成の過程を、「観察スキル」・「分類スキル」・「測定スキル」・「コミュニケーションスキル」・「予測スキル」・「推論スキル」の6つのスキルの視点で考察した。結果、園児たちは全てのサイエンス・プロセス・スキルを習得し育成していることが分かった。
8.「生活科」の「気付き」と「森のようちえん」との関わり	単著	令和2年3月	社会保育実践研究 第4巻	小学校教科「生活科」において、重要視される「気付き」とはどのようなことであるかを、学習指導要領解説生活編から読み取り、「森のようちえん」における幼児の言動、行動事例から考察し、「森のようちえん」での活動が「生活科」の気付きに関連していることがわかった。
9.森で行う幼児・児童の異年齢交流の意義	単著	令和2年3月	野外文化教育第18号	森で行う幼児、児童の異年齢交流がもたらす意義とその効果について実践し論じている。
10.地域の自然を活かした教材づくりとその効果	共著	令和2年3月	野外文化教育第18号	地域に生息するエゾヒメギフチョウの卵を採取し地域の小学校で飼育、小学3年生、4年生の学習教材として利用した効果を検証した。
(その他)				

1.大学で行う「動物とのふれ合い授業」の意義	単著	平成30年3月	栃木県獣医師会会報 第45号 p41-42	教員養成の大学で、「動物とのふれ合い授業」を獣医師と連携して行った。この講義では、実際にウサギに触れる体験をしたことから、学生の実践力が高まったという感想が多く答えられていた。これらのアンケート結果からその意義について考察した。
2.中名寄小学校放課後活動における森林環境教育2017	単著	平成30年5月	コミュニティケア教育 研究センター年報 第2 号p137-138	北海道名寄市の郊外に位置する小規模特認校である小学校の放課後活動として行なっている森林環境教育の効果について考察した。この活動から身の回りの自然への気付きが育まれていることがわかった。
3.地元商店街をフィールドとした子どものあそび空間の創造	共著	平成30年5月	コミュニティケア教育 研究センター年報 第2 号p139-150	北海道名寄市で行われている、地元商店街で行う地域住民、大学と子どもたちが遊ぶ、子どものあそび空間の創造の意義について考察した。参加児童の父母、地元商店へのアンケート調査を行いその結果から考察した。 執筆担当箇所：pp.145-148 共著者：柳原高文、今野聖士、長谷川武史
4.北海道名寄市で行なっている「森のようちえん」	単著	平成30年12月	森林レクリエーション No.379 P4-7	北海道名寄市で行なっている「森のようちえん」の実践報告をまとめた。ここでは、市内の保育所の年長園児を毎月1回、市内のレクリエーション施設である「健康の森」で自然観察を主として活動をしている。その様子、児童のまなびについて報告している。
5.中名寄小学校放課後活動における森林環境教育2018	単著	平成31年3月	コミュニティケア教育 研究センター年報 第3 号p142-143	北海道名寄市の郊外に位置する小規模特認校である小学校の放課後活動として行なっている森林環境教育の効果について考察した。地域に生息するヒメギフチョウの飼育から、地域の自然を大切に作る気持ちが育まれていることがわかった。
6.「森のようちえん」で見られるアクティブ・ラーニング	単著	令和元年5月	公益社団法人北海道と 緑の会発行みどりの Gift p7	「森のようちえん」で見られる園児のアクティブ・ラーニングを紹介した。「森のようちえん」の活動で、園児たちが小川をさかのぼる冒険をして、難題を協力しながら対話的に解決していく姿を見ることができた。

7.小学校放課後活動における 森林環境教育の意義	単著	令和3年5月	コミュニティケア教育 研究センター年報第 4号	地域の小規模特任校の放課後活動として行っている森林環境教育の効果と意義について論じている。
8.「地域体験」における学生の学 び1	共著	令和4年3月	高野山大学教育学科紀 要 p53～55	教育学科必修科目地域体験での学生の学び
9.「森のようちえん」を実施する にあたっての一考察	共著	令和4年3月	高野山大学教育学科紀 要 p119～129	大学に隣接する森で「森のようちえん」を実施するための手法例
10.人間力を向上させる学びとは	単著	令和4年5月	教育PRO 第52巻 p12 ～13	高野山大学教育学科必修科目「地域体験」行い気付きを深めていくことから、学生の人間力が向上いく姿を考察している。

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 4 「氏名」は、本人が自署すること。
- 5 印影は、印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし、やむを得ない事由があるときは、省略することができる。この場合において、「氏名」は、旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。

